

行動の意味を理解しておくこと

この夏は、大きな自然災害が立て続けに発生しています。まず、7月下旬の、熊本大地震です。最大震度7を観測する本当に大きな地震でした。イオンモール熊本の2階部分が爆発した映像は衝撃的でした。また、8月中旬には、千葉県を中心とする大雨で道路、建物、車などが水没してしまうような災害が発生しました。先週末には、石川県・富山県で線状降水帯の影響による大雨で甚大な被害を受けました。いずれの災害でも、この猛暑の中で避難生活を余儀なくされている方も多くいらっしゃいます。そして、多くの尊い命が奪われてしまった災害もありました。自然災害の恐ろしさと命の大切さを、心にとどめなければならない出来事です。

今回の避難訓練は、自然災害のうちでも「竜巻」など激しい突風を想定したものです。今から10年と少し前の9月、夜中の午前1時から数時間、熊谷市内を2本の竜巻が通過し、家屋の一部が吹き飛ばされるなど大きな被害を受けたことがありました。竜巻は年間を通じて発生するのですが、特に夏から秋にかけては、台風や秋雨前線の影響で大気が不安定になることから、竜巻が発生しやすくなるのだそうです。近年、大気が不安定であることが多くなりました。そういう状況を踏まえ、竜巻対応の訓練を本校では初めて実施することとしたのです。本日訓練で、皆さんは、机を可能な限り窓から離し、机の下に入り、頭と首をカバンなどで守りました。また、先生は教室の窓の鍵が閉まっているか確認し、カーテンを閉めたことと思います。肝心なのは、そういった行動がどのような意味をもつのかをよく考え、理解しておくことです。そうすれば、体育の授業で校庭や体育館にいたら…、帰宅途中の道だったら…、自宅だったら…と応用して、自分がとるべき行動を瞬時に判断することができると思います。繰り返しになりますが、行動の意味をしっかりと理解しておくことが、自分の命を守ることにつながります。

明日9月1日は「防災の日」と制定されています。今から103年前の9月1日正午、関東南部を震源とする関東大震災が発生しました。地震及び火災により被害は広範囲に及び、死者・行方不明者は10万人を超えました。「防災の日」は関東大震災を教訓に、地震や台風、豪雨などの自然災害について理解を深め、災害に対する備えを確認するための日となったのです。本日のこの避難訓練を契機に、皆さんのおうちでも地震や台風、豪雨などの自然災害への備えや約束事などについて確認しておく必要があると思います。

本日の避難訓練の講評は以上です。